

令和6年度第1回

富士見市史跡水子貝塚保存整備委員会

議事録

日時	令和6年10月30日(水)	開会	午前9時00分	閉会	午後10時00分	
場所	富士見市立水子貝塚資料館					
出席者	委員	阿部委員	佐々木委員	森屋委員	大島委員	和田委員
		欠席	○	○	欠席	○
		井上委員	鈴木委員	山口委員		
		○	○	○		
	オブザーバー	埼玉県教育局文化財・博物館課 倉澤主査 樋泉岳二氏(明治大学講師)				
事務局	水子貝塚資料館 堀、早坂、齊藤					
公開・非公開	公開(傍聴者なし)					
議題	1 開会 2 議題 (1) 史跡水子貝塚の発掘調査について 3 その他 4 閉会					
議事内容						

1 開会

2 議題

(1) 史跡水子貝塚の発掘調査について

事務局 令和5年度は、史跡水子貝塚の再整備に伴う整備基本計画についてご審議いただいた。

令和6年度は、再整備に伴い、平成2年度に確認された住居跡の一部発掘調査を実施することになった。

文化庁に申請し、許可がおりているのは、遺構の4分の1で、遺構の状況を把握するために、十字状にサブトレンチを設定し、調査を行った。

本日は、その状況を確認してもらい、住居跡のどの部分を調査すべきか、また、今後、どのように調査していくべきか意見をいただきたい。

また、本日は貝塚調査の発掘調査にあたり、ご指導をいただく樋泉氏にもご参加いただいたので、助言をしていただきたい。

(発掘調査現場へ移動)

事務局 (発掘調査の状況を説明)

まずは、どの部分を調査すべきかご意見をうかがいたい。

委員 今回の調査の目的は、資料収集と遺跡の把握のためであるため、貝塚の分布が偏っている状況を考えると、集中している部分にすべきである。

事務局 では、どのような調査方法にすべきか。

委員 まずは貝層の分布範囲を確定し、今回の住居の4分の1の範囲の中でベルトを設定して、堆積状況の把握をすべきである。

事務局 では、分布範囲の結果については、メールで報告し、どのように再設定するか意見を聞くこととする。

委員 基本的に1mメッシュを設定して調査を進めていくべきである。貝層も1mメッシュの単位で掘り下げてほしい。

委員 貝層は異なる貝種のブロック等がある場合は、メッシュの範囲を超えて1ブロックで取り上げ、層位ごとにその都度レベリングを行い、記録を取りながら精査していくべき。

委員 取り上げた貝層はIDをふること。メッシュの位置とIDで住居内の位置を記録していく。

委員 土器の付着物には気をつけて洗浄し、サンプリングは、炭化物や炉の周辺も行うようにしてほしい。

委員 貝層の上に新たに枯葉などが落ちて紛れ込まないように、ラップをかけるなどの措置をしてほしい。

委員 取り上げた貝層等は、できる限り乾燥させるようにしてほしい。土嚢の中で土が粘土化すると水洗の時に手間がかかる。

事務局 今回、いただいたご意見を基に発掘調査を実施していきたい。状況は、都度、報告するようしていく。

3 その他
特になし

閉 会